



# ほけんだより

<9月号>

令和3年度 あゆみ保育園  
園長 江郷 勝哉  
看護師 高瀬 浩子

9月の身体測定予定  
7日(火) 幼児クラス  
9日(木) 乳児クラス

今年の夏は、猛暑と梅雨のような長雨で、気温・湿度の変化が激しかったように思います。「新型コロナウイルス」の感染も広がりを見せ、市内でも、1日の感染者数が、20名を超える日もありました。また、小児の感染者も増加しているため、注意が必要です。夏の疲れが残っていると免疫力が低下してしまいます。睡眠・栄養をしっかりとって、体調を整えていきましょう。

<先月の感染症 (7月20日～8月20日)>

RSウイルス感染症	乳児2名
突発性発疹	乳児4名
溶連菌感染症	幼児1名
★その他：0歳児クラスで、下痢症状が流行しました。	

## <「新型コロナウイルス」について>

「新型コロナウイルス」の感染者数が急増しており、小児の感染者も増えています。RSウイルスの流行と重なり、小児科の診療は逼迫しているようです。

厚生労働省によると、感染の急拡大が続く東京都や大阪府などでは、20～40代の感染増に伴い、0～4歳の新規陽性者数も増加傾向が続いている。親などからうつる家庭内感染が主因とみられ、同省専門家組織座長の脇田隆字・国立感染症研究所長は「(インド由来の)デルタ株により、子どもも徐々に感染しやすくなっている」と分析する。

国立成育医療研究センターによると、子どもは感染しても「多くの場合は軽症」だ。だが、▽意識がはっきりしない▽食欲が低下している▽顔色が悪い▽息苦しそう▽嘔吐を繰り返す一などの場合は、担当の保健所やかかりつけ医に早めに相談することが重要という。

<時事ドットコムニュースより>

成人に関しては、症状が悪化し入院しなければならない状態でも、受け入れてくれる病院が見つからず、入院出来ない状況になっています。

個人個人が今一度、感染予防対策を見直して行動していく必要があります。

## << 9月9日は救急の日です：子どもの事故を予防しましょう >>

### <のどに物が詰まったときの対応：誤嚥>

のどに詰まったものが取り除けないときは、背中を叩いたり胸を圧迫するなどして、とにかく吐き出させます。

#### ① 反応ある乳児に対して、背中を強くたたく方法（背部叩打法）

- ・乳児をうつぶせにし、その下側に腕を通す。
- ・指で乳児の下あごを支えて軽く突き出し、上半身がやや低くなるような姿勢にする。
- ・手の付け根で両側の肩甲骨の間を4～5回迅速にたたく。

(乳児)



(幼児)



#### ② 反応のある乳児に対して、胸骨を圧迫する方法（胸部突き上げ法）

- ・背部叩打法で除去できなければ、あおむけにし、胸骨圧迫の要領で、4～5回圧迫する。



(乳児) ①背部叩打法と②胸部突き上げ法を、異物が取れるか、反応がなくなるまで繰り返す。  
(小児) ①背部叩打法と腹部突き上げ法\*を、異物が取れるか、反応がなくなるまで繰り返す。

\* 背後から両腕を回し、上腹部を斜め上方に圧迫する方法です。

○反応がなくなった場合は、ただちに心肺蘇生を開始してください。

(東京消防庁ホームページ:「日常生活の事故」より)

東京消防庁のホームページには、乳児・幼児に起こりやすい事故や事故対応についての情報が沢山掲載されています。事故を予防することがなにより大事です。また、いざという時に対応できるように、保護者の方々も、参考になさって下さい。